

海洋プラスチックごみ問題

～ プラスマLifeさが 豊かな自然を未来へつなぐ ～

1. 海のプラスチックごみは何が問題？

きちんと処理されなかったプラスチックは…



世界では年間約800万トンものプラスチックごみが海に流れ込んでいると推計

生態系への影響
環境生物への影響



クジラやウミガメ、イルカ、海鳥など、海に漂流しているビニール袋などのプラスチックを食べたり、プラスチック製の網が体に絡んだりして、死んでしまったり傷ついています。

出展：環境資料

2. プラスチックごみ

海のプラスチックごみのほとんどは陸から出たもの

プラスチックは、軽くて丈夫で様々な製品に加工しやすいなど多くのメリットがあり、様々な製品に使われています。



このまま増え続けると…

2050年には海のプラスチックごみは魚の量を上回ると予測

海のプラスチックごみが増えている！

増える原因は…

- ✓プラスチック生産量の増加
- ✓適切な処理ができていない
- ✓プラスチックが自然で分解されないことがない

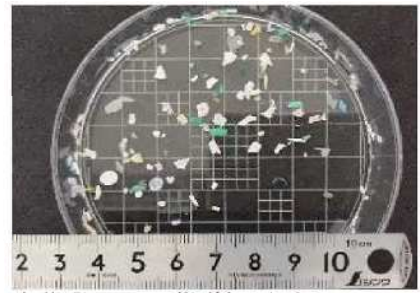


3. マイクロプラスチックごみ

特に問題！！

マイクロプラスチックとは？

海に流出したプラスチックごみの多くは、海中に浮いたり流れたりする中で、波や紫外線などの影響を受け、小さなプラスチックの粒子となります。5mm以下の粒子となったプラスチックは、「マイクロプラスチック」と呼ばれています。



資料：九州大学 磯部研究室

マイクロプラスチックは どうなるの？

一度自然に放出されたプラスチックは、分解されないため、その多くが数100年以上残り続けると言われています。

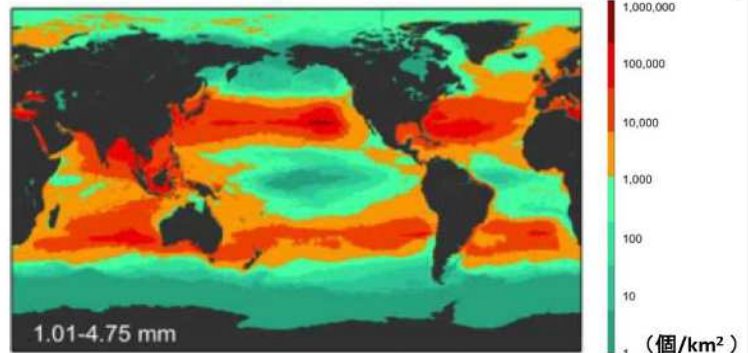
マイクロプラスチックは、海流に乗って世界中の海に広がっています。

海の生き物の体内に取り込まれ、また、海からとれる食べ物を通じて人体にも影響があるといわれています。

出展：環境資料

海洋プラスチック問題の現状（世界の分布）

- 海洋プラスチックによる海洋汚染は地球規模で広がっている。
- 北極や南極でもマイクロプラスチックが観測されたとの報告もある。



マイクロプラスチック(1~4.75mm)の密度分布(モデルによる予測)

4. 佐賀県では

佐賀も例外ではない！

佐賀県は、有明海と玄界灘という二つの海に面し、豊かな自然に満ちています。

しかしながら、有明海では…

有明海では、大雨や台風の後には、ペットボトルやビニール袋、木くずなど、大量のごみが流れ着いています。

玄界灘では…

波戸岬などでは、海流や地形、季節風などの自然条件から、日々、海洋ごみが流れ着いています。流木などに加え、プラスチック系のごみも多く、中には周辺国から流れ着いたと思われる漂着物も見受けられます。



ボランティア清掃や官民連携した定期的な清掃活動が行われていますが、ごみは後を絶ちません。

マイクロプラスチックを減らすためにできること

3R+Renewableを意識したライフスタイルの実践

✓Reduce(リデュース)ごみそのものを減らす

✓Reuse(リユース)何度も繰り返し使う

✓Recycle(リサイクル)資源として再利用する

✓Renewable(リニューアブル)プラスチックを自然界で分解される再生可能な素材や資源に切り替えていく



ライフスタイルの変革

